品店技人

―ファイル23―

プロフィール

代表 佐藤（さとう） 勇輝（ゆうき）

昭和38年1月5日生まれ
出身地：横手市

㈱サユウ

横手市柳田字新藤166-7
TEL.33-2627　FAX.35-1125
E-mail　sayu@am.wakwak.com

【創　　業】昭和49年
【営業時間】AM8:30～PM6:00
【定 休 日】日曜、祭日
【取 扱 品】中古自動車部品

今、あらゆる場面でリサイクル・地球環境・省エネルギーという言葉を耳にします。今回おじゃましたのは、自然環境に配慮しながら、廃車の引き取りから破砕までの工程を自社工場で行っている「㈱サユウ」さんです。改めてリサイクルの必要性を考えさせられました。

第二工業団地にある事業所の敷地内に、たくさんの車が積まれてあります。事務所におじゃまし取材開始です。

お忙しいところ時間をさいていただいてありがとうございます。

早速ですが、先日お電話させていただいた時「出張が多い」ということでしたが、出張といいますと…？

出張と言っても、車の買い付けに行っているんですが…。週二回ずつ二箇所で中古車両のオークションがあって、そちらの会場に行っているんです。

オークションということは、販売する中古車の仕入れのためですか。

いえいえ、今は鉄の値段が高騰しているので、中古車をそのままの販売するのではなく、解体してパーツごとに売るための買い付けです。だから会場にも私達と同じ破砕業社の人達がたくさん参加していますよ。ネットでもやっていますが、まとめて買い付けする場合は直接行った方が経費も安く済むんです。

▲少しでも社会の役に立ちたいと思っています

そうですか。何もわからなくてすみません。わからないついでにもう一つお聞きしたいのですが、私達が車を購入する際に負担する「リサイクル券」について教えていただけますか。

平成十七年に「自動車リサイクル法」が施行されました。そもそも車を解体すると鉄くず以外の廃品が出るため、その処理費用と、車から出るフロンガス、エアバックの処理に費用がかかります。つまりこれからの環境問題に悪影響を及ぼさないためにも、これらの廃棄物を適切に処分する費用として、車の所有者に負担してもらいますよということなんです。

なるほど、納得できました。㈱サユウさんでは、こういった廃棄物を全て処理できる設備が整っている会社として、指定されているということなんですね。

一台の車の何％がリサイクルされているんですか。

だいたい九十二～三％です。リサイクルされている物の中で

▲規格ごとの棚に管理され出番を待ちます

は、車の再利用率が一番高いんですよ。

そんなに再利用されているなんて、うれしいですね。業種は自動車解体業ということでよろしいんでしょうか。

主にはそうですが、実は中古車の販売も少しはやっています。そのほとんどが海外向けにですが…。

船で輸送するんですか。

いえいえ、外国の方で直接当社に買い付けに来る人もいますし、オークション会場に持っていって販売する場合もあります。

今度は社長さんがオークションに出品するんですね。

ええ、さっき鉄の高騰で解体して売った方がいいといいましたが、十年以上経った車でもまだ乗れるものは、外国からの需要があるんです。国によって欲しい車、好きなメーカーが様々です。実際、車の販売市場も大分活気付いてきましたよ。

必要とする人がいるから、そこに市場が生まれるんですね。この工業団地に移られてきたのはどういった理由からですか。

前の事業所の場所では、「自動車リサイクル法」に基づいた事業内容を行うための許可を取ることが難しかったのと、作業場をもっと広くしたいという希望もあって、ここがその条件に丁度マッチしていたため決めました。

車としては廃車でも、部品としてはまだ使えるというものをリサイクルすることだと思いますが、販売又は購入方法についてお聞きしたいのですが。

新しい年式の車の部品がやっぱり高く売れるんですが、なかなか近辺の地域だけでは商売として難しいんです。全国五〇〇社程の業社がネットワークを作り、欲しい部品があればネットで注文するというシステムで、注文を受けた業社は直接お客さんに配送するようになっています。

便利なシステムになっているんですね。

リサイクル商品を販売していることは、CO_2排出削減が自然にできているということだと思いませんか。それをお客さんに認識してもらうためには、数字で表すことが一番わかりやすいと思うんです。近い将来はきっとそうなるはずです。

お客様にとって、意識しなくても自然にecoができて、CO_2排出削減に協力できているということは、とても嬉しいことですね。

そうなんです。私達の業種はなかなかユーザーと直に接することがなかったんですけど、この地球温暖化の問題が世間で問われるようになって、身近に感じてくれたらいいと思っています。

▲ここからリサイクルが始まります　▲新たなお客様の元へ…（エンジン）

実際私達も社長さんのお話をお聞きして、かなり身近になりましたし、勉強になりました。

実はこの間、小学校の廃品回収があって、うちの会社で引き取りしたんですよ。今回初めて小屋に眠っている自転車とかストーブ等、金属製の物は何でも出してもらったんです。

いわゆる磁石に付く物なら何でもOKということですね。結構大掛かりだったのでは…。

はい。でも皆さん喜んでくれましたよ。少しでも、地域の人達のお役に立てたのかなと思います。

▲サイコロ状に処理された車

そうですよね。なかなか自分で捨てに行くとなれば厄介なものですからね。すみませんが、工場の方を見せていただくことはできますか。どうぞ！

ということで、一同ヘルメット着用で工場見学させてもらいました。

中に入ってビックリ！事故で無残な姿になった新車が解体されようとしていました。

一日どれくらいの台数が解体されますか。

だいたい二十五～三十台くらいですね。

次々に解体されていく光景に、スタッフ一同驚きの連続でした。最終的に一台の車がサイコロ状になってしまいました。

最後にご商売の今後について考えていらっしゃることがあればお話いただけますか。

そうですね。車に限らず、地場産品を海外にコンテナで輸送するための工場を作りたいと思っています。

ぜひ実現させてくださいね。ありがとうございました。